

令和5年度(2023年度) 学校評価総括表 【伊丹市立伊丹特別支援学校】

教育目標		豊かな心、たくましく生きる力									
重点目標		「チーム伊丹特別」として一丸となり教育目標実現のため互いに高め合おう ①本校の児童生徒の実態に応じた適切な教育課程の編成を行い、教員の指導力を向上し児童生徒一人ひとりの力を伸ばす②卒業後の進路や生活を見据え、肢体不自由特別支援学校としての取組の充実と関係機関との連携を大事にし、保護者への積極的な情報発信や丁寧な相談を行う③安全で安心な学校づくり④センターの機能の充実⑤意欲とゆとりと愛情を感じられる職場づくり									
主要施策	施策目標 基本施策	項目	重点項目	具体的施策	達成目標	達成度	成果と課題	改善策	学校関係者の評価		
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	適切な実態把握に基づく、自立活動の充実や類型を意識したカリキュラムマネジメントの推進	○これまでの指導・支援の評価や個別の教育支援計画や個別の指導計画を振り返り、一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。(自立活動) ○実態に応じた相談、健診、研修を活用し、自立活動や各授業に生かす。 (研究推進) ○研究テーマ『生き方を豊かにする力』を育む授業～教科等の系統性(小学部～中学部～高等部)に着目して～』に基づく授業づくりを目指し、授業研究に取り組む。	○これまでの指導・支援の評価や個別の教育支援計画や個別の指導計画を振り返り、一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。 ○各相談において、授業の中で相談内容を生かすことができるように、クラスでの話し合いを提案する。 ○クラスで助言内容を確認後、職科顧問を活用して関わりを呼びかけ、学校全体で情報を共有する。 ○アセスメントチェックリストの活用について、クラスや研究全体を通して理解を深める。 ○「見・学・ぶ」公開授業を実施する。 ○クラスの中で自分の実践について話し合い、良い点や改善点に気づき、自分の今後の実践に活かす。 ○研究全体会を実施する。	87%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○次年度も継続して取り組んでいく。 ○各相談の活用、相談票の提出等の流れがスムーズになってきている。職科顧問に1月毎にあげるようにし、今後も、自立活動が深まるよう、学校全体の情報共有に努める。 ○今年度の取り組みを継続する。また、来年度の研究発表会に向けて、さらに取り組みの内容を深めていく。	○個々に応じた丁寧な指導支援がなされている。引き続き子どもたちの学力向上に向け取り組んでほしい。		
			新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	ICT機器の有効な活用とデジタル化の促進	(小学部) ○児童個々の実態を考慮して、適切なICT機器を選択し、児童の自ら選択して楽しむ力を育成する。 (中学部) ○様々な経験を通して児童が自らの好きなものや活動に気づき、相手に伝える活動を設定する。 (高等部) ○校内の掲示板や日々の連絡帳、ホームページの更新の様子、Google Classroomで配信する学習内容等を家庭に伝達し、共有する。	○児童個々の実態や活動に応じた、適切なICT機器を選択し、活用方法を指導する。 ○児童が、自らの好きな活動を選択する場面を設定する。 ○掲示版では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。さらに、ホームページで日頃の学習内容を家庭に伝達し、共有し、生徒の様子を伝える。 ○毎日の連絡帳や授業の様子等をホームページやGoogle Classroomで配信し、保護者や地域に向けて情報を発信する。	○授業で、VOCA、iPad、スイッチなど、個々の実態に応じたICT機器を使用し、適切な活動を設定する。 ○児童が、自らの好きな活動を選択する場面を設定する。 ○掲示版では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。さらに、ホームページで日頃の学習内容を家庭に伝達し、共有し、生徒の様子を伝える。 ○職員に対してのアンケートの結果で「活用が増えた」という項目に5割以上の結果を得る。	90%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も継続して取り組み、児童の実態に応じた適切なICT支援機器の選択や活用力の育成、自己選択、自己決定力の育成に努める。 ○来年度も継続して取り組んでいく。	○ICT機器の活用が推進されている。授業での有効活用や家庭との連携により有効な活用を模索し推進してほしい。
				ICT機器の有効な活用とデジタル化の促進	(小学部) ○児童個々の実態を考慮して、適切なICT機器を選択し、児童の自ら選択して楽しむ力を育成する。 (中学部) ○様々な経験を通して児童が自らの好きなものや活動に気づき、相手に伝える活動を設定する。 (高等部) ○校内の掲示板や日々の連絡帳、ホームページの更新の様子、Google Classroomで配信する学習内容等を家庭に伝達し、共有する。	○児童個々の実態や活動に応じた、適切なICT機器を選択し、活用方法を指導する。 ○児童が、自らの好きな活動を選択する場面を設定する。 ○掲示版では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。さらに、ホームページで日頃の学習内容を家庭に伝達し、共有し、生徒の様子を伝える。 ○毎日の連絡帳や授業の様子等をホームページやGoogle Classroomで配信し、保護者や地域に向けて情報を発信する。	○授業で、VOCA、iPad、スイッチなど、個々の実態に応じたICT機器を使用し、適切な活動を設定する。 ○児童が、自らの好きな活動を選択する場面を設定する。 ○掲示版では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。さらに、ホームページで日頃の学習内容を家庭に伝達し、共有し、生徒の様子を伝える。 ○職員に対してのアンケートの結果で「活用が増えた」という項目に5割以上の結果を得る。	90%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も継続して取り組み、児童の実態に応じた適切なICT支援機器の選択や活用力の育成、自己選択、自己決定力の育成に努める。 ○来年度も継続して取り組んでいく。	○ICT機器の活用が推進されている。授業での有効活用や家庭との連携により有効な活用を模索し推進してほしい。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施		豊かな人間関係の形成とたくましく生きる力の獲得	(小学部) ○日々の授業を通して、自分の気持ちを表現する力や互いの存在を認め合い友達に働きかける心を育てる。 (中学部) ○人とのふれあいを通じ、コミュニケーションの力や相手への思いやりを育てる。 (高等部) ○日々の学習や、他校、地域の方との交流を通して、コミュニケーションの力を伸ばしたり、相手への思いやりを育てたりする。	○それぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わりあうことができるような内容や場面を設定する。 ○道徳や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わりあいを広げる。 ○校内外問わず、多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ることや多く設定したりする。	○それそれぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わりあうことができるような内容や場面を設定する。 ○道徳や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わりあいを広げる。 ○校内外問わず、多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ることや多く設定したりする。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も、目標や学習内容に応じて適切な学習集団を編成し、他者と関わりあう力の育成に努める。 ○来年度も、継続して学校内外の人と関わり、自身のコミュニケーション力を発揮して、他者と関わる取り組みを実施していく。	○子どもたちは学校大好きで楽しく通っている。いろいろな人との関わりを今後も大事にしてほしい。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	健康な心身の育成	(校内保健) ○児童生徒の実態に応じて、健康の保持・増進をはかると共に命を大切にすることを育てる。 (医療的ケア) ○医療的ケア安全委員会における情報共有及び協議を通して、安全な医療的ケアの実施体制を構築する。 (食育) ○各教科や給食の時間において、児童生徒の実態に応じた食育を実施する。	○校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図る。 ○会議や研修で児童生徒の健康に関する情報共有をし、全職員で共通理解を図る。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」を活用し、看護師や養護教諭、教職員間の役割分担と連携を円滑に行う。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」の活用について周知でき、担任クラスの児童生徒の安全な医療的ケアの実施に役立てる。	○それぞれそれぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わりあうことができるような内容や場面を設定する。 ○道徳や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わりあいを広げる。 ○校内外問わず、多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ることや多く設定したりする。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も保健・医療的ケアの書類を随時見直し、改善する。 ○児童生徒の安全の為、研修や啓発を行う。	○引き続き児童生徒の健康安全に配慮し教育活動に取り組んでほしい。	
			健康な心身の育成	(校内保健) ○児童生徒の実態に応じて、健康の保持・増進をはかると共に命を大切にすることを育てる。 (医療的ケア) ○医療的ケア安全委員会における情報共有及び協議を通して、安全な医療的ケアの実施体制を構築する。 (食育) ○各教科や給食の時間において、児童生徒の実態に応じた食育を実施する。	○校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図る。 ○会議や研修で児童生徒の健康に関する情報共有をし、全職員で共通理解を図る。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」を活用し、看護師や養護教諭、教職員間の役割分担と連携を円滑に行う。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」の活用について周知でき、担任クラスの児童生徒の安全な医療的ケアの実施に役立てる。	○それぞれそれぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わりあうことができるような内容や場面を設定する。 ○道徳や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わりあいを広げる。 ○校内外問わず、多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ることや多く設定したりする。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も保健・医療的ケアの書類を随時見直し、改善する。 ○児童生徒の安全の為、研修や啓発を行う。	○引き続き児童生徒の健康安全に配慮し教育活動に取り組んでほしい。	
			健康な心身の育成	(校内保健) ○児童生徒の実態に応じて、健康の保持・増進をはかると共に命を大切にすることを育てる。 (医療的ケア) ○医療的ケア安全委員会における情報共有及び協議を通して、安全な医療的ケアの実施体制を構築する。 (食育) ○各教科や給食の時間において、児童生徒の実態に応じた食育を実施する。	○校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図る。 ○会議や研修で児童生徒の健康に関する情報共有をし、全職員で共通理解を図る。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」を活用し、看護師や養護教諭、教職員間の役割分担と連携を円滑に行う。 ○「医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)」の活用について周知でき、担任クラスの児童生徒の安全な医療的ケアの実施に役立てる。	○それぞれそれぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わりあうことができるような内容や場面を設定する。 ○道徳や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わりあいを広げる。 ○校内外問わず、多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ることや多く設定したりする。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も保健・医療的ケアの書類を随時見直し、改善する。 ○児童生徒の安全の為、研修や啓発を行う。	○引き続き児童生徒の健康安全に配慮し教育活動に取り組んでほしい。	
		教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成	(キャリア教育) ○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進を実施する。 (進路) ○個々の適正や希望、課題を把握し、一人ひとりの願いに応じた進路先の開拓に努め、本人と保護者の進路選択・進路決定を指導・支援する。	○キャリア教育全体計画における児童生徒に届けたい資質・能力を踏まえて、教育活動を展開する。 ○担任や保護者と共有しながら、関係機関と連携を図る。進路先開拓や進路決定を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○各授業の目標や活動と関連する資質・能力を年間指導計画に明記し、実践する。 ○関係機関と連携協力し、進路先開拓を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○日本や外国の行事食についての授業をしたり、給食で行事食や郷土料理を提供することで、伝統的な食文化を継承する。	85%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も継続して実践し、評価していく。 ○進路先開拓の他、既存の進路先に本校児童生徒のニーズを伝達して理解を深め、選択肢の幅を広げる。また、本人と保護者へ情報発信し、積極的な進路先検討を呼びかける。	○進路先の情報や福祉制度の情報などニーズが多様ではあるが、情報発信に努めてほしい。	
			卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成	(キャリア教育) ○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進を実施する。 (進路) ○個々の適正や希望、課題を把握し、一人ひとりの願いに応じた進路先の開拓に努め、本人と保護者の進路選択・進路決定を指導・支援する。	○キャリア教育全体計画における児童生徒に届けたい資質・能力を踏まえて、教育活動を展開する。 ○担任や保護者と共有しながら、関係機関と連携を図る。進路先開拓や進路決定を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○各授業の目標や活動と関連する資質・能力を年間指導計画に明記し、実践する。 ○関係機関と連携協力し、進路先開拓を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○日本や外国の行事食についての授業をしたり、給食で行事食や郷土料理を提供することで、伝統的な食文化を継承する。	85%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も継続して実践し、評価していく。 ○進路先開拓の他、既存の進路先に本校児童生徒のニーズを伝達して理解を深め、選択肢の幅を広げる。また、本人と保護者へ情報発信し、積極的な進路先検討を呼びかける。	○進路先の情報や福祉制度の情報などニーズが多様ではあるが、情報発信に努めてほしい。	
			卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成	(キャリア教育) ○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進を実施する。 (進路) ○個々の適正や希望、課題を把握し、一人ひとりの願いに応じた進路先の開拓に努め、本人と保護者の進路選択・進路決定を指導・支援する。	○キャリア教育全体計画における児童生徒に届けたい資質・能力を踏まえて、教育活動を展開する。 ○担任や保護者と共有しながら、関係機関と連携を図る。進路先開拓や進路決定を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○各授業の目標や活動と関連する資質・能力を年間指導計画に明記し、実践する。 ○関係機関と連携協力し、進路先開拓を支援する。進路先開拓の発行や面談を実施し、情報提供を行う。 ○日本や外国の行事食についての授業をしたり、給食で行事食や郷土料理を提供することで、伝統的な食文化を継承する。	85%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○来年度も継続して実践し、評価していく。 ○進路先開拓の他、既存の進路先に本校児童生徒のニーズを伝達して理解を深め、選択肢の幅を広げる。また、本人と保護者へ情報発信し、積極的な進路先検討を呼びかける。	○進路先の情報や福祉制度の情報などニーズが多様ではあるが、情報発信に努めてほしい。	
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	一歩進んだセンター的機能の充実	(センター機能) ○本校の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ○特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校等コンサルテーション、特別支援教育実践講座の企画など、各事業を円滑に実施する。	○本校の教員がセンター的機能に携わることができるよう学校等コンサルテーションの同行を実施する。 ○要請のあった学校等の支援体制に段階的に学校等コンサルテーションを実施する。 ○特別支援教育実践講座の実施(9講座)運営する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○同行した教員の学校等コンサルテーションへの理解が深まる。 ○経験の浅いコーディネーターに対し、コーディネーターの仕事について助言する。 ○実践講座の参加申し込みや研修会後のアンケートについてGoogleフォームを活用する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○学校等コンサルテーションに同行できない教員(同行人数12名)のアンケートから、理解が深まり、意義があったという意見が多数あった。 ○コーディネーターの仕事についての実践講座を開き、助言する機会をもつことができた。 ○実践講座では、Googleフォームを活用したが、例年より申し込み者が少なくなったことが課題である。 ○要請に応じて学校等コンサルテーションや研修会を受け付けるなど、継続した関わりを持つことができた。	○引き続き市内のセンター的役割を積極的に担っていく。			
	一歩進んだセンター的機能の充実	(センター機能) ○本校の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ○特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校等コンサルテーション、特別支援教育実践講座の企画など、各事業を円滑に実施する。	○本校の教員がセンター的機能に携わることができるよう学校等コンサルテーションの同行を実施する。 ○要請のあった学校等の支援体制に段階的に学校等コンサルテーションを実施する。 ○特別支援教育実践講座の実施(9講座)運営する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○同行した教員の学校等コンサルテーションへの理解が深まる。 ○経験の浅いコーディネーターに対し、コーディネーターの仕事について助言する。 ○実践講座の参加申し込みや研修会後のアンケートについてGoogleフォームを活用する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○学校等コンサルテーションに同行できない教員(同行人数12名)のアンケートから、理解が深まり、意義があったという意見が多数あった。 ○コーディネーターの仕事についての実践講座を開き、助言する機会をもつことができた。 ○実践講座では、Googleフォームを活用したが、例年より申し込み者が少なくなったことが課題である。 ○要請に応じて学校等コンサルテーションや研修会を受け付けるなど、継続した関わりを持つことができた。	○引き続き市内のセンター的役割を積極的に担っていく。			
	一歩進んだセンター的機能の充実	(センター機能) ○本校の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ○特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校等コンサルテーション、特別支援教育実践講座の企画など、各事業を円滑に実施する。	○本校の教員がセンター的機能に携わることができるよう学校等コンサルテーションの同行を実施する。 ○要請のあった学校等の支援体制に段階的に学校等コンサルテーションを実施する。 ○特別支援教育実践講座の実施(9講座)運営する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	○同行した教員の学校等コンサルテーションへの理解が深まる。 ○経験の浅いコーディネーターに対し、コーディネーターの仕事について助言する。 ○実践講座の参加申し込みや研修会後のアンケートについてGoogleフォームを活用する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	91%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○学校等コンサルテーションに同行できない教員(同行人数12名)のアンケートから、理解が深まり、意義があったという意見が多数あった。 ○コーディネーターの仕事についての実践講座を開き、助言する機会をもつことができた。 ○実践講座では、Googleフォームを活用したが、例年より申し込み者が少なくなったことが課題である。 ○要請に応じて学校等コンサルテーションや研修会を受け付けるなど、継続した関わりを持つことができた。	○引き続き市内のセンター的役割を積極的に担っていく。			
教職員の資質向上 ①研修等の充実	人材育成	(研究推進) ○肢体不自由特別支援学校教員としての専門性を高めるため、校内研修を軸とし、取りまとめる。	○数年スパンでの校内研修実施計画を進める。 ○校内研修の内容を精選する。 ○実施状況を取りまとめる。	○研修を受けて自分の実践に活かす。	88%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○各教員の専門性や指導力向上のため効果的な研修を計画的に実施していくことが必要である。				
	人材育成	(研究推進) ○肢体不自由特別支援学校教員としての専門性を高めるため、校内研修を軸とし、取りまとめる。	○数年スパンでの校内研修実施計画を進める。 ○校内研修の内容を精選する。 ○実施状況を取りまとめる。	○研修を受けて自分の実践に活かす。	88%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○各教員の専門性や指導力向上のため効果的な研修を計画的に実施していくことが必要である。				
	人材育成	(研究推進) ○肢体不自由特別支援学校教員としての専門性を高めるため、校内研修を軸とし、取りまとめる。	○数年スパンでの校内研修実施計画を進める。 ○校内研修の内容を精選する。 ○実施状況を取りまとめる。	○研修を受けて自分の実践に活かす。	88%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○各教員の専門性や指導力向上のため効果的な研修を計画的に実施していくことが必要である。				
教育環境の整備・充実	安全・安心な教育環境の充実 ①学校防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもへの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	安全管理	○避難訓練等でBCPを基にした役割や動きができるか確認を行う。 ○防災研修を通して、より実践的な福祉避難所の運営の仕方について学ぶ。 ○自他の安全対策等について考え、本校の防災に活かしていく。	○BCP(事業継続計画)の再構築を図る。 ○「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身につける。 ○自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行う。	87%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○防災計画や災害対応などを関係機関とも連携して行っていく。また、障害者サービスセンターとも連携できる良いのでは。 ○安全について学校前道路が幅が狭いスピードを出すと危険なため、福祉ゾーンの指定など対策ができれば良いと考える。				
		安全管理	○避難訓練等でBCPを基にした役割や動きができるか確認を行う。 ○防災研修を通して、より実践的な福祉避難所の運営の仕方について学ぶ。 ○自他の安全対策等について考え、本校の防災に活かしていく。	○BCP(事業継続計画)の再構築を図る。 ○「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身につける。 ○自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行う。	87%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○防災計画や災害対応などを関係機関とも連携して行っていく。また、障害者サービスセンターとも連携できる良いのでは。 ○安全について学校前道路が幅が狭いスピードを出すと危険なため、福祉ゾーンの指定など対策ができれば良いと考える。				
		安全管理	○避難訓練等でBCPを基にした役割や動きができるか確認を行う。 ○防災研修を通して、より実践的な福祉避難所の運営の仕方について学ぶ。 ○自他の安全対策等について考え、本校の防災に活かしていく。	○BCP(事業継続計画)の再構築を図る。 ○「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身につける。 ○自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行う。	87%	○必要に応じて検討会などで過去の支援計画、指導計画の評価を見ながら、次の目標を立てて検討することができた。 ○相談内容や助言内容の確認など、各クラスで話し合い、各授業の中で生かすことが増えてきた。 ○職科顧問を活用した関わりについては、職科顧問にあげる時期が遅くなったことが課題であるが、情報の共有は概ねできていた。 ○G研や研究全体会を通して、理解を深めることができた。 ○見学制作りに計画し、毎月開催することができた。 ○年度初めに計画をたてたことで、クラス内で高過な授業について話し合うことができた。また、毎回テーマを設けることで、授業者の幅に寄り添って深く話し合うことができた。 ○研究授業の公開日を複数回設定し、多くの教員が研究全体会までに授業を参観することができた。	○防災計画や災害対応などを関係機関とも連携して行っていく。また、障害者サービスセンターとも連携できる良いのでは。 ○安全について学校前道路が幅が狭いスピードを出すと危険なため、福祉ゾーンの指定など対策ができれば良いと考える。				

学校関係者評価総括
学校は、個々の児童生徒の実態に応じて指導支援の工夫を行っており、教職員もしっかり取り組んでいる。また、クラス担任全員でクラス全員の子どもたちは指導する体制は安心できる。医療的ケアの体制や通学保障などの課題、福祉、医療、地域などとの連携などは、今後もより良いものを目指し取り組んでいく必要がある。

次年度に向けた重点的な改善点
○「チーム伊丹特別」として全職員がそれぞれの役割に応じてすべての子どもたちと関わり育てるという視点で連携協力し教育活動に取り組む。
○卒業後を見据えてつきたい力を意識し授業の系統性や指導の積み上げを考慮した授業改善に取り組む。
○安全安心な学校づくりのため、医療的ケアの体制整備や危機管理体制、防災教育等に取り組む。

主要 施策	施策目標 基本施策	項目	重点項目	具体的施策	達成目標	A	B	C	D	グラフ										
										A	B	C	D	達成率						
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成	適切な実態把握に基づく、自立活動の充実や類型を意識したカリキュラムマネジメントの推進	(教育課程) ○個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。 (自立活動) ○実態に応じた相談、健診、研修を活用し、自立活動や授業に生かす。 (研究推進) ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	○これまでの指導・支援の評価や実態把握を踏まえて、PDCAサイクルで個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。 ○相談内容を参考に、実態に応じた取り組みを、自立活動や授業の中で生かす。 ○相談内容を共有することで、知識を広げたり、日々の実践に活用したりする。 ○アセスメントチェックリストの内容や発達項目を理解し、実態と照らし合わせチェックする。 ○研究全体を通して学んだことを、授業づくりにつなげる。発達段階の特徴について、理解する。	○過去の評価を活かして、個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標や手立てを検討し、設定する。 ○相談内容を参考に、実態に応じた取り組みを、自立活動や授業の中で生かす。 ○相談内容を共有することで、知識を広げたり、日々の実践に活用したりする。 ○アセスメントチェックリストの内容や発達項目を理解し、実態と照らし合わせチェックする。 ○研究全体を通して学んだことを、授業づくりにつなげる。発達段階の特徴について、理解する。	14	25	0	0	0	0	5	15	25	30					
				○児童個々の実態を考慮して、適切なICT機器を選択し、児童の自ら選択して楽しむ力を育成する。 (小学部) ○児童個々の実態を考慮して、適切なICT機器を選択し、活用の仕方等を指導する。 ○様々な経路を通して児童が自らの好きなものやことに気づき、相手に伝える活動を設定する。	○授業で、VOCA、iPad、スリッパなど、個々の実態に応じたICT機器を使用した適切な活動を設定する。 ○児童が、自らの好きな活動を選択する場面を設定する。	10	9	0	0	2	4	6	8	10	12					
				○校内の掲示版や日々の連絡帳、ホームページの中学部の様子、Google Classroomで配信する学部通信等で、学校における学習内容を家庭に伝達し、共有する。 (中学部) ○積極的に学校からの情報を発信し、開かれた学校を目指す。	○掲示版では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。さらに、ホームページで日々の学習内容を写真付きで発信し、生徒の様子を伝達する。	6	8	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
				①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	○日々の連絡帳や授業の様子をホームページやGoogleclassroomで配信し、保護者や地域に向けて情報を発信する。 ○毎日の連絡帳で授業の様子等を記入する。 ○生徒の様子を載せた学部通信の発行やホームページの更新を行う。	7	7	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8			
	新しい時代に対応した教育の推進	ICT機器の有効な活用とデジタル化の促進	(小学部) ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	○校内で活用されているICT機器のアンケートの実施やアプリケーションの活用例の紹介を行う。	○職員に対してアンケートの結果を日常的にICT機器を活用する項目は割合以上の結果を得る。	14	24	1	0	0	0	5	10	15	20	25	30			
				○児童のふれ合いを通じ、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。 (高等部) ○日々の学習や、他校、地域の方との交流を通して、コミュニケーションの力を伸ばしたり、相手を思いやる心を育てたりする。	○校内で活用されているICT機器のアンケートの実施やアプリケーションの活用例の紹介を行う。	○職員に対してアンケートの結果を日常的にICT機器を活用する項目は割合以上の結果を得る。	7	7	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8		
				○児童のふれ合いを通じ、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。 (小学部) ○日々の授業を通して、自分の気持ちを表現する力や互いの存在を認め合い友達に働きかける心を育てる。	○それぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わる力をつけられるような内容や場面を設定する。	11	8	0	0	2	4	6	8	10	12					
				○児童のふれ合いを通じ、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。 (中学部) ○人とのふれ合いを通じ、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。	○学校内外の多くの人と関わる機会を設け、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、相手とつながる体験をする。	9	5	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	「豊かな心」の育成	豊かな人間関係の形成とたくましく生きる力の獲得	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	○日々の学習や交流学習、校外学習、現場施設実習などの活動で、多くの人と関わりを持つ。	○校外外関わり。多くの人と関わりを持ち、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを知る機会を多く設定したりする。	6	8	0	0	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
				○個々の状況に応じた配慮及び行事に係る健康管理を行う。 ○児童や研修で児童生徒の健康に関する情報共有をし、全職員で共通理解を図る。	○校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図る。 ○自らの健康管理や緊急対応、安全に行事等を行えるよう、教職員に啓発等を行う。	17	22	0	0	5	10	15	20	25						
				○医療的ケアの安全委員会における情報共有及び協議を通して、安全な医療的ケアの実施体制を構築する。 (医療的ケア) ○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進・充実を図る。	○医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)の活用し、看護師や教職、教職員間の役割分担と連携を明確にする。 ○医療的ケアBOOK(教職員用ハンドブック)の活用について周知でき、担任クラスや児童生徒の安全な医療的ケアの実施に役立つ。	4	31	4	0	5	10	15	20	25	30	35				
				○個々の口腔機能を把握し、適切な食形態や摂食指導の方法を考案する。 ○各教科や給食で日本の伝統的な食文化を学ぶ。	○保護者や教職員間で連携し、個々の実態や課題を明確にしたうえで安全な摂食指導を行う。 ○日本や外国の行事食についての授業をしたり、給食で行事食や郷土料理を提供することで、伝統的な食文化を継承する。	21	18	0	0	5	10	15	20	25						
「健やかな体」の育成	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	(食育) ○各教科や給食の時間において、児童生徒の実態に応じた食育を実践する。	○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進・充実を図る。	○各授業の目標や活動と関連する資力・能力を年間指導計画に明記し、実践する。	10	29	0	0	0	0	5	10	15	20	25	30	35			
			○担任や保護者と共有しながら、関係機関と連携を密にする。進路説明会や福祉合同説明会、進路展の発行や面談を実施し、情報を提供する。 (進路) ○個々の適正や希望、課題等を把握し、一人ひとりの願いに応じた進路先の開拓に努め、本人と保護者の進路選択・進路決定を指導・支援する。	○関係機関と連携協力し、進路先の選択を促す。本人と保護者の願いを理解し、進路選択・進路決定に役立つ情報を提供する。	10	29	0	0	5	10	15	20	25	30	35					
			○本校の教員がセンター的機能に関われることができるよう学校等コンサルテーションの周知を実施する。 ○関係機関との連携を密にする。進路説明会や福祉合同説明会、進路展の発行や面談を実施し、情報を提供する。 (センター的機能) ○本校の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ○特別支援教育における地域・センター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校等コンサルテーション、特別支援教育実践講座の企画など、各事業を円滑に実施する。	○同行した教員の学校等コンサルテーションへの理解が深まる。 ○経験の深いコーディネーターに対し、コーディネーターの仕事について助言する。 ○実践講座の参加申し込みや研修会後のアンケートについてGoogleフォームを活用する。 ○市内の肢体不自由のある幼児・児童・生徒、肢体不自由学級担任、保護者に対する相談を充実させる。	23	16	0	0	5	10	15	20	25							
			○数人・少人数での校内研修実施計画を進める。 ○校内研修の内容を精選する。 ○実施状況を取りまとめる。	○研修を受けて自分の実践に活かす。	17	22	0	0	5	10	15	20	25							
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備	①コミュニケーション・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	○学校運営協議会の委員に地域自治会の方を加え、地域への発信力を高めると共に学校の現状を知ってもらい連携体制の構築を図る。 (管理職) ○学校運営協議会の活性化と熟練の促進 (総務 ICTとオープンスクール関係者) ○市内学校園や放課後等デイサービス等の関係者に本校の広報活動を行う。	○学校運営協議会での取り組みをコミュニティなどの発行や職員同研修等により保護者や職員と共有する。 ○より幅広い関係機関に案内し、オープンスクールへの参加者を増やす。	16	23	0	0	0	0	5	10	15	20	25					
			○避難訓練等でBCPを基にした役割や動きができるか確認を行う。 ○防災研修を通して、より実践的な福祉避難所の運営の仕方について学ぶ。 ○学習場面の中に、防災や防災の要素を取り入れ、環境も兼ねた自他の危機管理意識を高める。	○BCP(事業継続計画)の再構築を図る。 ○「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身に付ける。 ○自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行う。	16	22	1	0	5	10	15	20	25							
			○児童生徒への防災教育を通じて安全への意識を高め、防災計画を見直す。 ○自他の安全対策について考え、本校の防災に活かしていく。	○BCP(事業継続計画)の再構築を図る。 ○「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身に付ける。 ○自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行う。	16	22	1	0	5	10	15	20	25							